



日本に来た目的

テッ テッ スェ
THIT THIT SWE

私が日本に来た一番の目的は、母国ミャンマーと日本を比較して、日本から学ぶべきところを発見するためです。日本には進んだ技術があるだけでなく、規律や環境整備も非常に高いレベルで整えられています。見習うべきところ、お手本にするべきところは全て母国に持ち帰り、ミャンマーのために役立てたいと思っています。

私が日本に着いたのは2017年1月のことでした。成田空港に到着した直後私を出迎えたのは冷たい風でした。毎日気温30度以上ある国で育った私の体は一気に芯まで冷えてしまいました。しかし色々なことを経験したいという気持ちで胸は熱くなり、寒さもへっちゃらでした。私が配属された実習機関は食品工場です。おにぎり、お弁当、寿司を作っています。日本の食品工場は厳しいルールで品質が守られています。その中でも衛生管理は最も重要で、一つの間違ひもないように徹底されています。なぜなら安心して安全な食品をお客様の手元に届けたいという思いが企業にあるからです。人の口に入る商品を作っているため、小さなミスが命を奪うことにも繋がります。だから従業員一人一人が責任を持って衛生管理をしなければならないのです。全ての従業員が工場で決められたルールに従って日々たくさんの商品を製造しています。人生において健康が何よりも大事なことです。そのためには日々の食生活は切っても切り離せません。私の実習生は衛生管理をしっかりとい、健康な食生活についても常に考えてい

ます。そんな企業で実習できることを本当に嬉しく思っています。

工場の方々は時間を確実に守り、わからないことも丁寧に説明して教えてくれます。仕事に対しては厳しいですが優しい人ばかりです。私は工場で技術を習得しながら、日本人としっかりとコミュニケーションを取ることができるようになるために日本語も勉強しています。勉強は毎日仕事を終えたあとになるため、疲れもあって辛いときもあります。けれど未来のことを考えるといつでも楽しく生活ができます。私が実習を受ける企業が、お客様を大切に思っているのと同じくらい、会社で働く私たちを大切に思ってくれていることがとても嬉しく、そのおかげで仕事に誇りを持ってできているからかもしれません。

実習期間が終わって母国に帰ったら、私の学んだことを会社に伝えます。そして将来は日本で学んだことを活かして、安心して安全な食品を製造する工場を作りたいです。私が3年間一生懸命頑張って働いて、貯金したとしても大きな工場はできないでしょう。けれど最初は小さな食品工場からが良いのです。そこから始めてミャンマーで一番の工場になれるよう頑張ります。会社の利益より人の健康や栄養を大事にすることを今私は学んでいます。ミャンマーにはないこの考え方を自分の工場からミャンマー全土へと広げて、全ての人を食から幸せにすることが私の夢です。